

岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン（別冊） 「ハード整備版」 概要版 「岡谷市学校施設長寿命化計画」

計画全体 2019年度～2028年度（後期計画 2024年度～2028年度）

本計画は、「岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プラン」の施策のうち、学校施設・設備の充実に向けた「長寿命化大規模改修の推進」に関する部分を別冊「ハード整備版」として策定する5年間の計画であり、上位計画や関連する他の計画等との整合を図っています。

- 1 ハード整備版の計画期間 2019年度から2028年度までの10年間
うち後期計画 **2024年度から2028年度までの5年間**の計画とします。

2 学校施設のめざす姿

基本となる「めざす姿」	主な視点
1. 快適に学べる安全・安心の学校施設	長寿命化大規模改修の推進 学校トイレの洋式化、バリアフリー化の推進
2. 時代の変化に対応した 魅力と活力ある学校施設	教育ICTの積極的な活用 長期的展望と未来を見据えた学校施設の整備
3. 地域の拠点として、 地域とつながる学校施設	子どもの居場所、地域交流の拠点 災害時の避難所、安心安全の学校づくり
4. ゼロカーボンをめざす 環境にやさしい学校施設	整備時に発生する廃棄物等の抑制 省エネに配慮したやさしい学校づくり
5. 未来を見据えた持続可能な学校施設	学校施設のスリム化、他公共施設との複合化、 共用化、集約化の検討等、持続可能な学校施設

3 学校施設整備の基本方針

国・県の方針等に基づく「岡谷市公共施設等総合管理計画」は、全ての公共施設に共通する方針であり、同計画の基本方針に則って計画推進を図ることとします。

<岡谷市公共施設等総合管理計画(基本方針)>

基本方針1 資産総量の適正化

基本方針2 長寿命化の推進

基本方針3 更新費用等の財源確保

4 学校配置の基本的な考え方

今後も少子化の進展が見込まれる環境において、現在の小中学校（小学校7校、中学校4校）は、当面、複数の学年を一緒に編制する複式学級が見込まれる規模の学校はないため、この点において、ただちに学校統合や閉校などを判断する状況にはないと考えています。

ただし、時代の進展とともに、更に児童生徒の減少が進む予測を踏まえると、少人数化が更に進んだ学校では、複式学級による編制を余儀なくされることや、集団での学びや活動、豊かな情操や人間性を育む上で様々な課題や支障が想定されるほか、施設管理面においても学校を運営していくために必要となる維持費や整備費のコストがかかります。

このため、今後、複式学級の編制が必要となった小規模校については、教育的配慮の観点から子どもの最善の利益を優先し、施設面では、限られた財源の効果的な活用の観点から、他校との統合等を検討することとします。

（※複式学級とは、2つの学年の合計が8名以下の場合、複数の学年で編制する学級です。）

5 通学区域と小中一貫教育の今後の考え方

小中学校の通学区域は、地理的状况や地域社会の歴史的経緯等を踏まえ、市教育委員会が設定していますが、現在、ひとつの小学校から2つの中学校に分散して入学する学校があります。

また、令和5年2月策定の「川岸学園構想」により、川岸地区への小中一貫による義務教育学校への移行方針を示し、川岸地域以外についても小中一貫教育の検討を行うとしています。今後、小中一貫教育を市内全域で展開していくには、児童生徒の集団に関しても、小学校と中学校を系統化し、直接つなぐことがメリットのひとつとなります。これらを踏まえ、小中一貫教育の今後の展開を検討する際には、全域を対象とした通学区域の見直しについても合わせて検討していくこととします。

円滑な接続を図る小中一貫教育の全市展開に向けた検討
小中一貫教育を見据えた全域の通学区域の見直しの検討

6 学校施設整備にあたっての部門別実施方針（主な部分の抜粋）

① <構造躯体の長寿命化>

建設から長期間経過し、大規模改修工事等が実施されていない建物は、躯体の劣化度調査を実施し、構造的見地により工法を判断し、長寿命化改修工事を基本とする改修計画を検討します。

長寿命化改修工事を実施する校舎は、改修後30年から40年間程度の使用に耐える整備を目標とします。

② <資産総量の抑制>

学校施設の長寿命化大規模改修の計画にあたっては、学校に必要な機能は確保した上で、建物の減築等により、資産総量の抑制を図ります。

③ <屋根・外壁等の外装材>

屋根・外壁等の外装材は抜本的な工事を計画するまでの間、適切な維持管理に努め、大規模改修工事を計画する際には、断熱性等に配慮し、環境負荷の低減に努めます。

④ <内部仕上げ>

天井、床、内壁などの内部仕上げはこまめに補修等を行い、長寿命化大規模改修工事を実施する場合は、使用部材ごとにメンテナンスのしやすさやランニングコストなどを考慮し、仕様の選定を行います。

⑤ <バリアフリー化、エレベーター、トイレ洋式化>

バリアフリーに配慮した環境整備に取り組みます。小中学校のエレベーター設置は、大規模改修時に設置の適否等を考慮し、整備可能な学校への整備を促進します。学校トイレの洋式化を計画的に実施します。

⑥ <屋内運動場（体育館）>

学校の体育館は定期的に補修しながら、長寿命化に努め、年数が経過した体育館は、改修計画に合わせて建替え又は解体等の方針を検討します。

⑦ <学校プール>

学校プールは、大規模改修が必要な時点で、市民プールの利用等を個別に検討します。ただし、小学校プールは、低学年プールの延命化を基本とします。市民プールに切り替えの際は移動手段を確保します。

⑧ <給食調理室>

安全で衛生的な調理環境の維持に努めるほか、大規模改修等時には衛生的な施設環境を整備します。

⑨ <学童クラブ室>

学童クラブ室の維持保全に努め、校舎内の余裕教室等への移設を基本に施設整備を検討します。

⑩ <教員住宅>

教員住宅は、大規模改修が必要になった時点で、建物の集約化や廃止を検討することとします。

7 学校施設整備の実施計画

今後の整備順位は、総合劣化度、建築年、改修経過等をもとに判断します。

上記の考え方のもと、次の整備校は「川岸小学校」を位置付けています。

8 計画の継続的な運用方針

計画のフォローアップを図り、見直しが必要な場合、適切に対応します。

令和6年2月策定
策定：岡谷市教育委員会
（担当 教育総務課）